

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 ほなみ保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	・園の保育目標を基に、年間指導計画、週日案等を細かく編成している。園の特色として「人権同和教育」を基本とした園目標を併せて掲げている。また「園のしおり」の最後に児童憲章を掲げている。人権の尊重を園運営の基底としている。 ・今回の第三者評価の保護者アンケートでは、保育園の方針を知る良い機会になったというコメントがあり保護者も再確認している。 ・保育の内容については町全体の山ノ内町保育研究会があり職員が参加する各部会を通じ保育課程を編成して定期的な研修を行っている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>・古い園舎であるが耐震工事やエアコンの設置等を整備し大切に使われている。新しい園舎では出せない木のぬくもりのあるほっとする心地よい雰囲気がある環境となっている。当日は園庭に歴史を感じさせる立派などうだんつつじが紅葉していた。園庭も広く、固定遊具も他の園と比較して多く配置されていた。周りはりんご畑に囲まれた田園地帯で子ども達は伸び伸びと外で遊んでいた。</p>
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>・各年齢毎にまた個々の発達過程合った保育を展開し、各年齢に合った手づくりの玩具が保育士のアイデアで室内、廊下等様々の場所に用意されて思い思いに遊んでいた。保育士も全体の子どもの取り巻く情報をしっかり把握して声がけをしていた。全体的に子どもを尊重したのんびりしたペースでゆったりとした保育が出来ている点が長所である。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>・ 保育園での生活全てが基本的な生活習慣を身につけることに結びついている。歯磨き、手洗い、トイレ、給食、午睡等の基本的な生活習慣は異年齢の壁がないことにより小さい子ども達は年上の子ども達の生活習慣を見まねし自然に身に付き良い循環になっている。保育士が個別に、また取り立てて指導するといった感じは無かった。どの子どもも挨拶は元気いっぱい明るい表情が印象的であった。</p>
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 	<p>・ 都市部の最新の保育園では少なくなった昔ながらの固定遊具が充実している。ブランコ、すべり台、ジャングルジム、鉄棒、砂場（猫は来ないらしく網はかかっている）、雲梯、太鼓橋があり、子ども達は朝から夕方まで自由に過ごしていた。園外保育も、神社、お寺、南小学校等地域的に恵まれた環境にある。近所の方との交流や地域の方も協力的であり、畑に囲まれており柵もない所があるが、地域での防犯の意識も高く豊かな環境で子ども達は過ごしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	④		<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="869 212 1653 244">■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 <li data-bbox="869 316 1653 371">■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 <li data-bbox="869 419 1653 451">■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="869 534 1653 590">☐ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 <li data-bbox="869 638 1653 694">☐ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 <li data-bbox="869 742 1653 774">☐ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 <li data-bbox="869 853 1653 909">☐ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 <li data-bbox="869 957 1653 989">☐ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 <li data-bbox="869 1069 1653 1125">☐ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	・該当なし

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>・遊戯室内の固定用具が整備され一人ひとり自主的に遊べる様配慮されていた。3歳以上児と一緒に遊ぶ時は安全に配慮し思い思いに活動していた。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>・3歳児は保育士がフラフープの様に回している子ども中に入り電車ごっこをする子、転がして遊ぶ子と実に多様な遊びが広がっていた。4歳児は室内で過ごし後半は園庭の固定遊具を自由に使って遊んでいた。また3歳児以上は室内遊技場の天井まで伸びる上り棒に滑らないよう上着を脱いで腕を出してつぺんまで慣れた様子で登ることができる。</p> <p>・保小連絡会を年2回開催し、また南小学校生との交流を行っている。ほなみ保育園の子どもはほとんど南小学校に入学する予定である。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>・支援児が1名おり対応していた。担任の保育士と加配の保育士が配置され見守る体制になっている。12月の発表会に向けて役を決めて対応していた。クラスの中でピアノのふたを開け自主的に弾いているのを子ども達や保育士も普段のように見守っていた。また後半は園庭で自由に遊ぶ様子が見れた。毎年担当は保護者との連絡を密に日々の保育を行っている。</p>
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 	<p>・専用の部屋と共に専任の保育士が担当している。どの子も慣れてきている様子がみれた。朝は10人弱、夕方は15人前後と全体の人数から見ると多く感じられた。兄弟で過ごしている子どももおり迎えがくるまでのんびり過ごしていた。</p> <p>・土曜保育は午前中のみ、延長時間も18時30分と短いため保育時間の長い子どもに配慮した食事やおやつ等は対応していない。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑨		<input type="checkbox"/> 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	<p>・保小連絡会が来入見の受け入れに向けての推進日程を5月から3月までの年間計画を作成している。ほなみ保育園の子どもはほとんど南小学校に入学する予定である。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 □ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町からの乳幼児健診の予定表を目につきやすい場所に掲示してある。園内では毎月の健康状態を把握している。健康診断は年2回、発育測定は年2回個別に管理されている。 ・検温で体温の高い子どもは様子を見て保護者に連絡している。手洗い、うがいの習慣づけ、水分補給、うつぶせ寝のチェックをし保育士が管理している。 ・午睡時は全員がパジャマに着替えている。コップ、歯ブラシ、パジャマは1週間で持ち帰り布団は1カ月で持ち帰っている。
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断や歯科検診が行われている。歯科は親子歯科検診として年長・年中・年少（職員も一緒）に給食の試食会も兼ねている。身体測定は毎月実施され出席簿と同じファイルに綴られて記録されていた。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(3)	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 □ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>・入園時に確認している。現在アレルギーの子が1名入園している。クラス配膳のため保育士が直接配膳している。毎月の献立表にはアレルギー児には個別に対応することを伝えている。</p> <p>・「保育園入園のしおり」や「保育園たより」にはアレルギー疾患や慢性疾患等についての取り組みが明示されていないので保護者にわかりやすい取り組みの説明を期待する。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 	<p>・班に分かれて向き合い話をしながら楽しく食事をしていた。好き嫌いはなく本当によく食べていた。保護者は農家も多く、園では年齢別の畑があり野菜が身近になっており食育が自然に行われている。給食でのお皿に載ったトマトは食べなくとも、畑で実ったトマトは食べるそうである。身体を使った保育活動で空腹になっているかもしれないがおいしそうに食べていた。</p> <p>・クラスだよりや毎月の献立表により旬の食材、園のリクエストメニューを掲載している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(4)	①		<ul style="list-style-type: none"> ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 □ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>・どのクラスもしっかり食べ残食は少なかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エノキ、シメジ、りんご、ブドウ（巨峰）、地元や山ノ内産コシヒカリ（雪白舞）を献立に取り入れている。 ・近所や保護者から地域の地域の食材が届き地産地消の給食が提供されている。 ・衛生管理マニュアルは作成されてから年月が経過し山ノ内町保育研究会給食部会で検討されている。改訂されたマニュアルに沿った衛生管理が行えるよう期待する。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳はなく、出席ノートが情報交換の手段となっている。要望等があれば個別に行っており、口頭で伝えたり出席ノートを用いて連絡している。 ・運動会、音楽会など園児が直接参加するものから保育士と小学校の先生との連絡も綿密に計画され保護者へはオクレンジャーを利用している。 ・少人数の強みであるかもしれないが保護者と保育士の会話による情報交換がうまくいっている。 ・お盆の頃に親子の集いがあり地域交流を兼ねている。
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の保健師から入る情報連絡をきっかけに保育士が保護者を支援する取り組みが多い。 ・園開放時や入園前の幼児が通う「ゆめっこ」（子育て支援センター）で保護者からの相談を支援している。 ・「おさがりの会」があり服のリサイクル等を行っている。 ・保育士がクラスの保護者の悩みや相談の窓口となり寄り添い支援をしている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	2	(2)	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 □ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体重測定時に子どもの体の変化を隔々まで観察している。気になる保護者には声がけをしている。 ・新入園児と昨年度途中入園した園児の家庭訪問を実施し家庭での養育の状況把握に努めている。 ・町では園だけでなく要保護児童対策協議会と情報収集や未然防止の体制を整備している。 ・虐待等権利侵害を発見した場合等について明示したマニュアルは確認できなかった。
A	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回自己評価シートを町に提出している。正規職員のみ実施し、評価項目別に24チェック項目を自己評価している。 ・正職以外の職員の自己評価は実施に至っていないため保育所全体の評価では改善の余地がある。